

磐城時報

日刊 廿四
編輯 磐城時報編輯部
印刷 磐城時報印刷部
發行 磐城時報發行部
電話 磐城時報電話部
廣告 磐城時報廣告部
訂費 磐城時報訂費部
地址 磐城時報地址部

小學生の約四割は 授業料を滞納 手を焼く町當局

平町役場では小學校授業料の滞納の豫想であつたが筆数が少い納に少からず悩まされて居り目的の使用土地面積が狭い關係が下整理を急いで居るが、その調ら全部の整理がついても結局四に依り昨年度から滞納となつて居るものは實に四百名に達し居りこれを納付兒童總數に比較すれば四割以上の滞納となつて居る、これ等滞納者の各家庭は授業料に困ると云ふ様なことは全然なく、いづれも横着のため滞納をして居るものである、故に嚴重な督促をなし整理をなす方針であるといふが、他の税金と異つて居るので強制処分も出來ず煩る手古摺つて居る。

官有雜種地 調査抄をる

二ヶ年繼續事業として調査に着手した平町税務署管内官有地雜地調査は豫定以上に進捗し既に一町二ヶ村は終了したが調査の結果は無断使用地の筆数は割合少く現在の調査状況から見れば平均管内を通じて一村二十五筆平均位なものと見られこれ等の土地は全部從來使用して來た者に時價の半額にて拂下げを行つて居る拂下げの成績もよく片付いて行くが拂下げ價格は最初十萬圓

植田町議戦 定員一名超過

植田町會議員選舉は來る二十九開始することになつたが今日まに行はれるが、目下の候補者でこの調査によつて附近の埋藏炭者は左の十九名で定員廿名より量は無盡藏と稱されて居り各關の政黨別を見ると民政黨十名、ある。

戸數割(前期分) 百圓以上を納むる人

二二・三・七〇	馬目玉彌
一一・二・五六	草野順平
四一・七・八九	吉田由三郎
一〇・九・八二	鈴木比佐子
二二・六・一六	酒井重雄
一一・〇・七六	上田耕作
一一・五・五〇	織田豊太郎
一一・二・八〇	岡田長太郎
一一・八・五〇	諸橋敬一郎
一一・八・九七	小松龜吉
一一・〇・八八	小原喜八
一一・〇・〇三	鷹崎貞衛
一一・九・五六	明智淺吉
一一・四・三〇	谷口仁太郎

斜坑に着炭

磐城炭礦では數年前より高坂坑の下に斜坑を試掘中であつたがこのほど漸く着炭し本年度下期ころより愈々大規模に採掘を期する事になつたが今日ま

愈々今日から 入梅らしくなる

入梅に入つても今年にはほとんど雨がなく田植期節といふに水不足で種々の出来ない處が各地にある、このまゝ早天が續くと農作物に大なる影響を及ぼす昨今の天気について小名濱測候所の観測によると

小名濱測候所發表

一五・一・三六	石川トヨ
二二・八・五七	關内正一
三九・三・七七	鈴木堅助
一六・七・六五	中野庄吉
一三・五・三八	長瀬延太郎
一四・九・七三	大谷久藏
一〇・九・一九	馬目勝次郎
一四・八・一一	佐々木喜代治
一三・一・八三	柏原幸次郎
一〇・五・九二	中野康平
一〇・三・七四	猪狩嘉平
一八・〇・八二	大須賀善吉
二五・一・八〇	久野ヒサ
一四・七・一一	梅原銀次郎
一一・〇・八二	草野喜一
一一・〇・四五	小野常治
一〇・八・六四	松本愛三
一〇・五・二八	百澤易興
一六・八・八九	阿部唯次郎
一七・七・九八	猪狩庄平
一六・四・八九	江尻淺之助

輸入藝妓で景氣 濱通りの各海水浴場

いよゝ海水浴期が近づいて來患者の收容を行つてゐるが、竣二十四日午前二時頃植田町佐藤たので小名濱、四倉、豊間各海水浴場ではそれ〴〵浴場の準備中である。新病舎は新病院法に依り手沼澤七郎(二一)が運轉し助手を急いで居るが一方各浴場にあつて設計した理想的病舎で隣接する藝妓屋、料理屋ではこの書入地との間は周圍七尺の距離ありを満載して小名濱町から相馬郡時を逃がしては年中浮かぶ瀬が總二階建て、入院室十七、看護原町に向ふ途中湯本驛南方踏切無いでぼつと顔立の良の婦室、手術室、機械室、消毒室に於て折柄進行中の上り急行列を第一に置いて輸入を始める四倉等あり、二階には非常梯子の設備を施してある、病舎は六疊押入れ付きで、一室に一人を收容する事になつてゐる、又手術室は東北一を以て誇り得るもので天井、四方全部硝子張りであるから手術に際して光線を平均にとり得る理想的のものである。

運轉競技

東京鐵道局管内の列車運轉競技は二十四日から五日間行ふ等であるが、平機關庫の運轉は平水戸間で競技に用ふる列車は第二六八列車で審査は圓滑なる運轉を主とする外消耗品節約等も考慮し優勝機關庫に優勝旗を授與する筈である。

木村病院の 病室完成

平町新川町木村寅次郎氏經營の木村病院は外科併置と同時に病舎を改稱し三百坪の敷地を設け助(六三)を誤つて轢き倒し全治して理想的病舎並に手術室を新築一ヶ月を要する重傷を負はせた中であつたが、此程全く落成したので平署で取調中である。

尼子自動車 老人を轢く

平町二丁目尼子自動車運轉手草野美模(二四)は二十二日午前八時頃湯本町から平町まで乗合自動車運轉疾走中平町長橋町地内で同町賣藥行商人島崎巳之助(六三)を誤つて轢き倒し全治して理想的病舎並に手術室を新築一ヶ月を要する重傷を負はせた中であつたが、此程全く落成したので平署で取調中である。

貨物自動車 跳ね飛ばさる

二十四日午前二時頃植田町佐藤たので小名濱、四倉、豊間各海水浴場ではそれ〴〵浴場の準備中である。新病舎は新病院法に依り手沼澤七郎(二一)が運轉し助手を急いで居るが一方各浴場にあつて設計した理想的病舎で隣接する藝妓屋、料理屋ではこの書入地との間は周圍七尺の距離ありを満載して小名濱町から相馬郡時を逃がしては年中浮かぶ瀬が總二階建て、入院室十七、看護原町に向ふ途中湯本驛南方踏切無いでぼつと顔立の良の婦室、手術室、機械室、消毒室に於て折柄進行中の上り急行列を第一に置いて輸入を始める四倉等あり、二階には非常梯子の設備を施してある、病舎は六疊押入れ付きで、一室に一人を收容する事になつてゐる、又手術室は東北一を以て誇り得るもので天井、四方全部硝子張りであるから手術に際して光線を平均にとり得る理想的のものである。

時報文藝

夜の歩み
茨 涼 香
サツト銀星
亂れ飛ぶ
瀟灑な夏の
夕まぐれ
夜の銀座か
平銀路
聯珠に與を
そらられて
しほり佇む
行人衆
生くる處女
花のチウリップ

驚いた!!!

こゝまで安んじは
平・加納活版所の印刷物
赤い血潮を
まどわかす
花賣娘も
いと愛らしく
何時も露店に
にぎやかな
二丁目角の
十字路

